

みんなの「個性」

小五

みなさんは、人の「個性」について、考えたことはありませんか。わたしには、個性について考えるきっかけになった出来事がありました。それは、友達が、女の子なのに自分のことを「ぼく」と言っていることを、他の子にバカにされたことです。

わたしの友達いちにんしょうは小学四年生で、家が近所で登下校も同じでした。その子は女の子で、一人称が「ぼく」でした。わたしはどうして女の子は「ぼく」や「おれ」と言っているのではないのか考え、悲しくなりました。なぜなら、わたしも男の子のような

物が昔から好きで、それをクラスの男の子に笑われたことがあったからです。わたしは、自分のことは気にしないけれど、友達が何か言われたら、すごく気にするからです。他にも、わたしは詩を書くのが好きで、よく詩を書いていました。そのときにも、

「気持ち悪い。」

「変。」

と笑われました。

このような出来事がわたしにはたくさんあり、それから人の個性について考えるようになりました。例えば、「どうして一度失敗しただけで人は笑うのだろうか。」と考えることもありましたが、個性は、自分しかもっていない特別なものだと思

います。その個性が一つ残らずなくなってしまうたら、みんな全く同じでつまらないと思います。でも、一人一人個性があるからその人のよさが出るのです。みなさんは、金子みすゞという詩人を知っていますか。この人の詩に、『私と小鳥と鈴と』という詩があり、その中に、「みんなちがって、みんないい。」という言葉が出てきます。この言葉を聞いて、どう思いますか。わたしはこの言葉は、個性を大切にしていく言葉だと思っています。

わたしはこのようなことから、他の人にも人の個性を大切にしてほしいと思っています。そのためには、一人一人が自分も、友達や親も大切にしないで、なくてはならないのです。わたし

しはこの作文を書き、もつと個性を大切にしようと思いました。